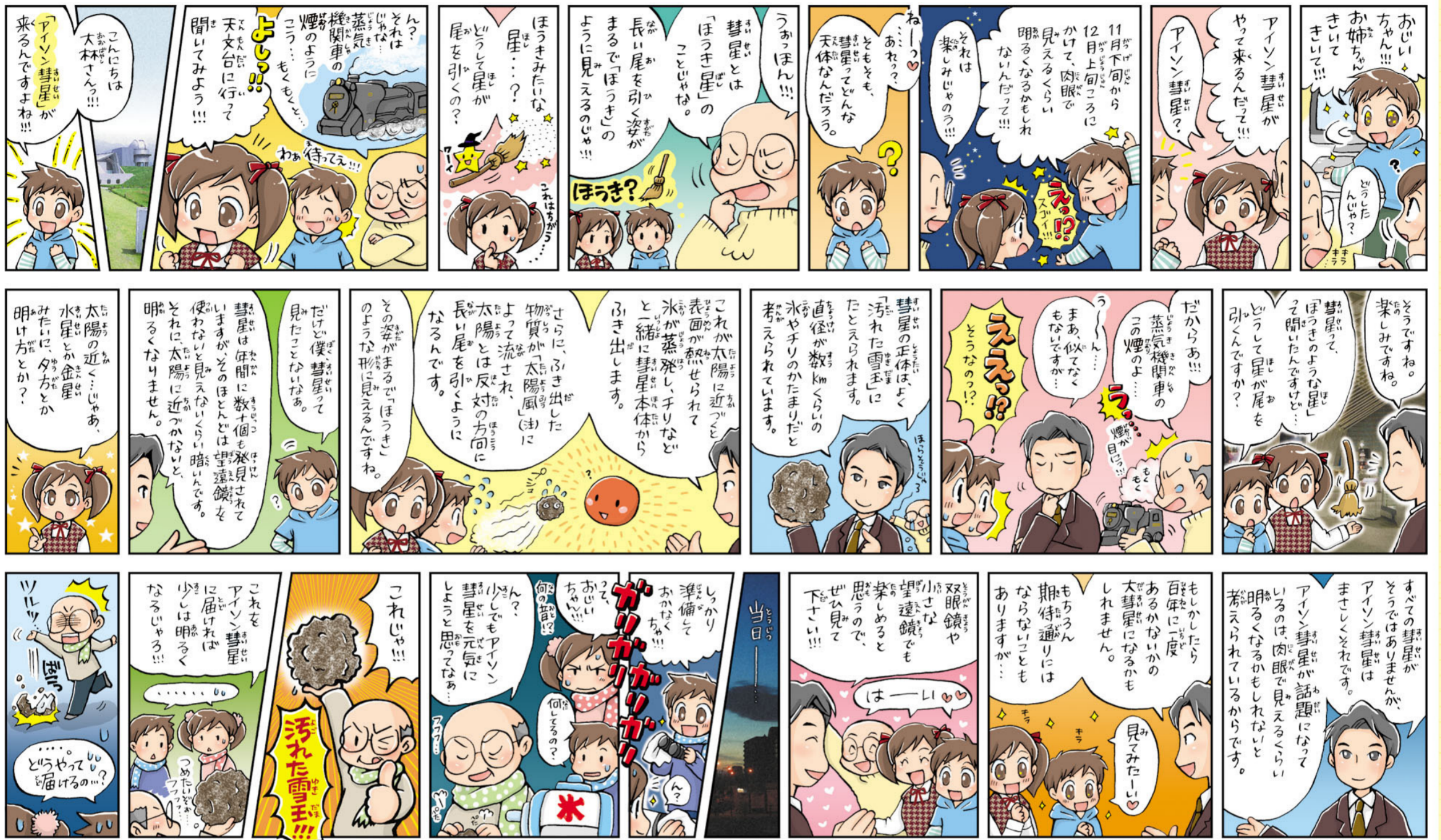


「大彗星がやって来る!?!~アインzyn彗星を見よう!!~」



(注)太陽風:太陽は自ら光を放つ「恒星」です。太陽は光だけでなく、陽子や電子などの物質を秒速数百kmもの速さで宇宙空間に放出しています。この物質の吹き出し、流れを、太陽風といいます。

彗星の姿

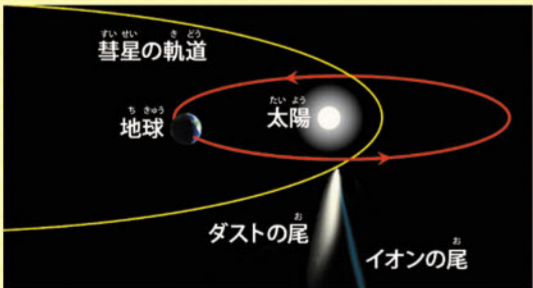
彗星は、小惑星などと同じく太陽系小天体の一つです。彗星の本体(核)といいますが、主に氷や塵(ダスト)などからできており、その直径は数km程度、大きくても数十km程度です。

太陽からまだ遠いところでは、低温のために彗星の核は凍りついていて、目立った活動は見せません。しかし太陽に近づいてくると、太陽からの熱によって表面が蒸発しはじめ、それが薄い大気となって核の周りをポーと球状に取り囲む「コマ」(髪の毛の意味)を生じます。コマは直径が数十kmほどにもなります。さらに太陽に近づくと、太陽風などの影響

でこれらの物質が太陽の反対側に流されるようになり、彗星独特の「尾」を生じるようになります。

彗星の尾には、大きく分けて2種類あります。一つは、ガスがつくる「イオン(プラズマ)の尾」(イオンテイル、プラズマテイル)で、電気を帯びているために、太陽風に流されて、太陽とは正反対の方向に細く長く伸びます。もう一つは、塵がつくる「塵(ダスト)の尾」(ダストテイル)です。やはり太陽の反対側に伸びますが、彗星本体の移動に伴って、彗星の軌道面上に広がった幅のある尾になります。

コマや尾が目立つようになるのは、彗星が太陽に十分(地球の軌道程度まで)近づいてからです。彗星が太陽に近づくとコマは明るくなり、尾も発達します。ただし、太陽に近づくことで、観察しやすいのは明け方や夕方になってまいります。



アインzyn彗星・見ごろはいつ?

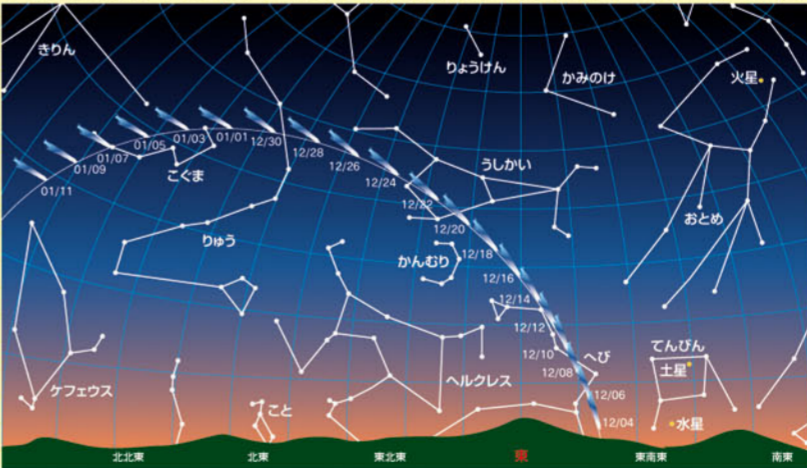
アインzyn彗星は、太陽に非常に近づくことが分かっています。近日点通過(太陽に最も近づくとき)の11月29日(日本時間)ころには、明るさがマイナス等級に達するかもしれません。しかしこの時期は、見かけの位置も太陽に非常に近く、たとえ望遠鏡を使ったとしても、観察は難しくなります。また、近くに太陽があるので危険でもあります。

ます。おすすめは12月に入ってからです。

下の図は、12月の明け方の東の空の様子を表したものです。12月に入ると、アインzyn彗星はしだいに太陽から離れ、観察しやすくなります。少し早起きをして観察にチャレンジしてみましょう。

なお、アインzyn彗星のように極端に太陽の近くを通過する彗星の場合、彗星本体が分裂したり崩壊したりしてしまう心配もあります。アインzyn彗星が無事に生き残って、雄大な姿を見せてくれることを願いましょう。

▼12月から1月上旬にかけての、日の出前(午前5時50分ごろ)のアインzyn彗星の位置



写真撮影にチャレンジ!!

下の写真は、1997年春に姿を見せたハール・ボップ彗星を市街地で撮影したものです。三脚にカメラを取り付け、数秒間シャッターを開きっぱなしにしてあげると写ってくれます。本番の前に練習をしておきましょう。



天文台だより

イベント情報 (2013年10月~2014年3月)

Table listing various events at the observatory, including exhibitions, observation sessions, and lectures, with dates and times.

開館情報 [月曜日休館] ※月曜日が祝日の場合は、翌火曜日が休館

館内の施設見学 火~日曜日/10:00~17:00 (11月~2月は16:00まで) 夜間の天体観望会 予約不要 土・祝日/19:00~22:00 (11月~2月は18:00~21:00) 館内のイベント 11:00~15:00cm望遠鏡見学ツアー 11:30~12:00/星間の星の観察会 13:00~15:00cm望遠鏡見学ツアー 14:00~15:00/屋外モニュメントツアー 15:00~/3Dシアター

